

薬用植物園かわらばん

皆さ〜んちょっと覗いてみませんか？
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ・・・



2018年
7月23日
第47号

ホオズキ（ナス科）

一昔前、姉が秋になるとホウズキの種を出した果実の皮を口に含み、頬を膨らましキュッキュッと音を出して遊んでいた思い出があります。東アジア原産で人家に栽培されている多年草です。地下には長い根茎があり、花は白色です。花後、萼筒が成長して液果を包み込み、あざやかな赤色になります。液果も球形の赤色で、微量のアルカロイドを含み、食べると苦いです。根および根茎を、生薬名、酸漿根（さんしょうこん）と呼び、咳止め、解熱、利尿に利用されますが、子宮収縮作用があり、流産をおこす可能性があるため、妊婦の使用は禁止です。



オトギリソウ（オトギリソウ科）

今、第1圃場で黄色の花が咲いているのが見られます。全国各地の野山に生える多年草。葉を透かしてみると、細かい黒点が多数見られます。この黒点にはヒペリシンを含み、光線過敏症・皮膚炎の原因物質です。和名「弟切草」の名の由来は、平安時代の鷹匠兄弟の伝説からと言われています。全草を生薬名、小連翹（しょうれんぎょう）といい、婦人の月経不順、鎮痛などに用いたり、咳にうがい薬として利用します。また、切り傷の止血、腫物に外用することはよく知られています。ハイキングなどで虫刺され、切り傷で困った時はオトギリソウを思い出してください。

今、こんな草木が楽しめますよ！！